

むつ、東通を 東電社長訪問

新年挨拶で

東京電力ホールディングス（HD）の小早川智明社長は25日、年始のあいさつでむつ市と東通村を相次いで訪れた。市役所では、柏崎刈羽原発（新潟県）から使用済み核燃料を同市の中間貯蔵施設に向け搬出する計画を3月までに提示する方針を改めて説明した。

応じた山本知也市長は、東電HD子会社で同施設を運営するサイクル燃料貯蔵が2024年度上期年始のあいさつでむつ市を訪れた小早川智明社長を25日、むつ市



長が25日、年始のあいさつのためむつ市役所を訪れた。山本知也市長に対し、東電柏崎刈羽原発（新潟県）から同市の中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬出について「搬出に関わる技術的整備を進めている。年度内に搬出計画を示したい」と述べた。



長が25日、年始のあいさつのためむつ市役所を訪れた。山本知也市長に対し、東電柏崎刈羽原発（新潟県）から同市の中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬出について「搬出に関わる技術的整備を進めている。年度内に搬出計画を示したい」と述べた。

1/26 デーリー東北

原電用容器を追加へ むつ中間貯蔵 規制委が審査案

原子力規制委員会は17日、東京都内で定例会合を開き、使用済み核燃料中間貯蔵施設を運営するリサイクル燃料貯蔵（RFS、むつ市）の事業変更許可に向けた審査結果案を取りまとめた。日本原子力発電の原発から燃料を受け入れるため、加圧水型軽水炉（PWR）用の金属容器と、沸騰水型軽水炉（BWR）用の中型容器を新たに追加する内容。

同施設は東京電力と東電が建設、2020年11月に安全審査に合格した。東電柏崎刈羽原発（新潟県）用の容器は既に許可済みで、これで東電、原電両社の原発から燃料を受け入れることが可能となる。新たなBWR用中型容器については、輸送された容器を仮置きする「受け入れ区域」での基数を制限するとの条件を付けた。県定最大の津波高を2倍にした「仮想的大規模津波」によるリクレインが落下して容器が損傷した場合、敷地境界の線量が評価基準値を超えないようにするため。規制委は原子力委員会と経済産業相に意見聴取を行い、問題がなければ正式に許可を決定する。（加藤景子）

東通1号機安全工事 「24年度完了目指す」

東北電力の樋口康二郎社長は12日、新年あいさつのため東通村役場を訪れた。樋口社長は運転停止中の東通原発1号機（同村）について「再稼働に向けて頑張っていく」とし、安全対策工事の完了時期については「2024年度中の完了を目指して進めるといふことで変わりない」と、従来の目標を堅持する考えを示した。

原子力規制委員会の安全審査は「着実に進んでいる」という認識と説明。審査対応に「最大限の努力」を払っていると、「想定通りに進まないことも考えられるが、そいつについてもしっかり対応する」と話した。樋口社長は、畑中稔朗村長と川端一松村議会議長とそれぞれ非公開で懇談。畑中村長は「早期再稼働に向けて肅々と（審査対応を）進めていただきたい」を取材に述べた。（熊谷慎吉）

大間原発の工事開始 「実現へ最大限努力」

Jパワー社長 電源開発（Jパワー）の菅野等社長は12日、新年あいさつのため大間町役場を訪れた。報道陣の取材に対し、今年後半の開始を目指している大間原発（同町）の安全強化対策工事について「目標の実現に向け、最大限努力する」と述べた。

能登半島地震による今後の安全審査への影響については「今後新しい知見が出てくるようであれば真摯に取り組みたい」との姿勢を示しつつ、「大間原発近辺の断層や、その連動の可能性については既に勘案した上で審査をお願いしている。審査のプロセスを進めていきたい」と話した。新年あいさつの席には野崎尚文町長と町議が出席。冒頭のみ公開され、菅野社長は「大間現地本部と東京本社が一体となり事業を推進していく」と語った。懇談後の取材に対し、野崎町長は「（工事開始が）遅れないように努力してほしい」と伝えた。と述べた。終了後、菅野社長は風間浦村と佐井村を訪れた。

年始のあいさつで山本市長と会談する小早川社長。むつ市役所

↑ 1/26 東奥日報 1/18 東奥日報 →